私のオンライン留学生活

アンカラ大学

エルコチュ・アイス・イミラン

私は、アンカラ大学日本語日本文学科からお茶の水女子大学に長期交換留学生として来たエルコチュ・アイス・イミランと申します。今学期は新型コロナウィルスの影響で、日本に入国することができませんでした。トルコでオンライン授業を受ける形で | 学期を過ごしました。今から、この | 学期の間、私が経験したことについて話したいと思います。

その前に、今学期の間、たくさん手伝ってもらった方々に感謝の気持ちを伝えたいと思います。まず、 指導教官の浅田先生、毎月振り返りシートを読んでいただき、本当にありがとうございました。また、 萩原先生と松田先生、私をサポートしてくださってありがとうございます。最後に、今学期受けた授業 担当の先生方に、心から感謝の気持ちを申し上げます。

今学期は、学期末とはいえ、日本に入国できると思っていたのですが、入国は無理でした。実は、日本への入国制限が緩和された時期もあったのですが、政府は、オミクロン株の感染が広がっているのを受けて、II月30日からすべての国からの外国人の新規入国を停止しました。すなわち、日本への留学を目指した外国人たちは、再び入国ができなくなりました。

お茶の水女子大学でのオンライン授業は、「ズーム (Zoom)」というプログラムを使って、リアルタイムで行われました。昨年は、アンカラ大学でオンライン授業が行われていたため、オンライン授業に慣れるのに問題はありませんでした。しかし、日本とトルコの時差が 6 時間であることは、私の日常生活にかなり影響を及ぼしました。

交換留学生は、「交換留学生 HR」を含む合計 8 つの科目を履修する必要があります。ですから、合計 9 科目を受講しました。この 9 つの授業の一つひとつが、私の日本や日本語に対する知識を大きく向上させました。しかし、このうち 4 つの授業の内容についてお話したいと思います。

まず、チョ先生の「日本語演習 4B」授業は、日本人の学生と日本語学について話すことができる授業です。この授業では、毎週異なる言語項目について、少人数のグループでディスカッションすることで、様々な視点を身につけることができます。そして、グループで言語項目を選び、その項目に関する活動計画書を作り、発表し、他のグループの発表を評価する必要があります。また、個人課題として、自分で選んだ言語項目に関するレポートを作成する必要があります。トルコ語での時間を表す表現「アスペクト」についてはほとんど知識がないので、日本語のアスペクトマーカー「ーテイル」についての課題を用意し、アスペクトについての理解を深めました。

横田先生の「日本事情演習 5B」授業のおかげで、日本語の記事や論文を読み、要約する際に注意すべき点を知ることができました。この授業では、自分が扱いたいテーマごとにグループに分かれ、そのテーマについて 2 つの発表を行いました。前者の発表のテーマは、「からくり人形」を選びました。後者のテーマは「現在の書道教育」でした。この授業の発表では、いろいろな面で私を助け、新しいことを教えてくれたクラスメートのピヴェク・アレクサンドラに感謝したいと思います。



西川先生の「日本事情演習 2B」では、東京について知らなかったことをたくさん知ることができただけでなく、自分の国や自分の国の教育についてビデオを作ることで、お茶の水女子大学の小学生に知らせる機会もありました。また、同じテーマで小学生が送ってくれたビデオを見て、日本の教育システムを知ることができました。

萩原先生の「日本語演習 5B」授業は発表と意見交換の能力を高めることを目的とします。例えば、この授業で、トルコ語でのインタビューすら行ったことのない私が、高齢者を狙った特殊詐欺について日本人の学生にインタビューしました。この授業のおかげで、インタビューを行う際、また、その結果を評価する際に気をつけるべきことを学びました。

日本での生活を楽しめないのはとても残念ですが、この交換留学の | 学期は私にとって最高の経験になりました。今学期を通して、多くの先生方、留学生、日本人学生と出会い、交流することで、自分の視野をさらに広げることができたと感じています。来学期は、日本で対面授業を受けられるようになることを願っています。